



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

モーリタニア・イスラム共和国
 — 2017年度 拠点機能回復支援事業 —
 (終了時評価-2018年4月)

事業概要

国名	モーリタニア・イスラム共和国
プロジェクト名	モーリタニア・イスラム共和国における漁業開発のための施設改善プロジェクト
実施期間	2017年9月14日(署名日)～2018年3月31日
相手国政府覚書署名省庁名及び実施機関	覚書署名省庁：水産海洋経済省 実施機関：水産職業訓練・資格センター

プロジェクト実施の経緯と背景

モーリタニア・イスラム共和国(以下、「モーリタニア」)における水産物の国内需要は年々高まっている。国内魚類供給公社の統計によると、2014年の3,503トンから2016年の7,850トンへと水産物の国内消費が都市部を中心に飛躍的に伸びている。しかしながら、モーリタニア国籍の零細漁業者は少なく、セネガル等の周辺国籍の漁業者等が違法操業を含む漁業生産を行っているのが現状である。そのため、モーリタニア国籍の零細漁業者の育成が急務となっている。

このような状況の中、同国政府は、モー



リタニア国籍の零細漁業者を育成するために、財団に対し 2017 年 6 月 9 日付漁業省計画協力局長発書簡をもって零細漁業発展のための技術支援を要請した。財団は、我が国とモーリタニア・イスラム共和国との漁業関係を考慮し、この要請に応え、2017 年度に拠点機能回復等支援事業によるプロジェクトを実施することを決定した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	モーリタニアの漁業者が育成される。
プロジェクト目標	水産職業訓練・資格センター（CQFMP）傘下のブラワッカ職業訓練センターの零細漁業振興及び漁民訓練拠点としての能力が向上する。
成果	1. ブラワッカ職業訓練センターの製氷施設が回復するとともに、講師の製氷機整備技術が向上する。 2. ブラワッカ職業訓練センターの製氷機技術訓練のノウハウが蓄積される。
活動	製氷施設の回復、製氷機整備技術の向上及び製氷機技術訓練ノウハウの蓄積
投入	財団側 <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家； プロジェクトマネージャー兼冷凍機専門家 計画：2018 年 2 月以降 30 日（移動日 2 日＋現地滞在 28 日前後） 実績：2018 年 1 月 20 日～2 月 20 日（32 日間） 電気技師者 計画：2018 年 2 月以降 20 日（移動日 2 日＋現地滞在 18 日前後） 実績：2018 年 1 月 29 日～2 月 19 日（22 日間） 仏語通訳者 計画：2018 年 2 月以降 30 日（移動日 4 日＋現地滞在 26 日前後） 実績：2018 年 1 月 20 日～2 月 20 日（32 日間） 延日数（上記 3 名の合計） 計画：80 日間 実績：86 日間 （計画対比：108%） ・ 主な資機材； 製氷機実機（日産 1 トン）及び製氷機シミュレータ等 ・ 事業費； 予算：合計約 46,443 千円（上記人件費含む） 実績：合計約 45,980 千円（上記人件費含む） （予算対比：99%） 相手国側： <ul style="list-style-type: none"> ・ カウンターパート； 3 名・CQFMP（責任者、所長、講師） ・ プロジェクト関連予算、土地、施設等； 資機材の荷揚げ地から実施サイトまでの国内輸送は先方が負担

評価事項

◆ 妥当性

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

モーリタニア政府は、「持続可能な水産開発戦略 2015-2019」と題したマスタープランにおいて、貧困対策や雇用に関する社会問題を水産開発のアプローチから取り組むとともに、水産資源の持続的利用を実現するためのブルー・エコノミー政策を推進することを強調している。水産物に対するモーリタニア国内需要は年々高まっており、国内魚類供給公社 (SNDP) 統計によると、2014年の3,503トンから2016年の7,850トンへと水産物の国内消費が都市部を中心に飛躍的に伸びている。

魚類の国内消費需要は今後も高まることが確実視され、モーリタニアの漁民の育成は急務となっていることから、本案件を実施することは妥当と認められる。

2. 協力ニーズ(対象国、対象地域)との整合性

モーリタニア政府から、水産関連施設の修理・修復及び現地技術者への技術移転並びに関連組織への指導・助言を要請され、事前調査において、ブラワッカ職業訓練センターにおける製氷施設の修理・修復及び技術指導への協力ニーズが高いことが確認された。同センターにおける訓練生の数、当該施設の機能回復に裨益する周辺住民(漁業者・鮮魚販売者)は多く、協力ニーズとの整合性は高い。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

既存の施設を修理・修復することから、新たに施設周辺の環境に影響を及ぼすことはない。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

今回の実施内容は施設の修理・修復及び技術指導であり、漁獲強度の増加に関するものではないことから、水産資源環境に対する悪影響は考えられない。

5. その他(プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等)

特になし。

◆ 効率性

1. 事業費及び実施期間

実施期間は計画を多少超えたが、事業費は予算額内に収まったため、効率性は高い。(対比：事業費 99%、実施期間 108%)

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

資機材及び専門家は、実施計画に従いタイミングよく投入され、プロジェクト活動は計画期間内にすべて完了し、それぞれ期待された機能及び能力を発揮した。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

移転技術は、専門家が事前調査においてカウンターパートの技術水準を見極めた上で指導内容を検討しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、カウンターパートの水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

特になし。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

◆ 有効性

1. プロジェクト目標の達成度

(1) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標： 水産職業訓練・資格センター（CQFMP）傘下のブラワッカ職業訓練センターの零細漁業振興並びに漁民訓練拠点としての能力が向上する。

計画どおりブラワッカ職業訓練センターの製氷施設の機能が回復し、また、必要な技術移転が行われ、技術指導によるカウンターパートの基礎知識及び技術レベルは益々向上したことからプロジェクトの目標は達成された。

(2) その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

(1) ブラワッカ職業訓練センターの製氷施設の修理・修復及び同センター講師に対する技術指導

ブラワッカ職業訓練センターの修理・修復を行い、同センター講師に対し、製氷設備に関する技術指導を行ったことにより、技術レベルが向上し、施設の稼働が円滑になった。

(2) 同センター講師技術指導

<期待された成果>

ブラワッカ職業訓練センターの製氷機技術訓練のノウハウが蓄積される。

ブラワッカ職業訓練センターの製氷施設の修理・修復と同センター講師に対する技術指導の他、同センター講師に対して製氷機シミュレータを用いたトラブル・シューティング技術訓練を行ったことから、プロジェクト実施前と比較して講師の製氷機訓練技術が明らかに高まったと考えられる。

インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

ブラワッカ職業訓練センター講師の製氷機施設整備技術が向上し、製氷技術訓練のノウハウが改善された。同センターの漁業振興及び漁民訓練拠点としての能力が向上し、このセンターの卒業生が、将来的にモーリタニアの有能な漁業者になっていくことが見込まれる。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施により、製氷施設が稼働し、周辺漁民に氷が円滑且つ安定的に供給されるようになった。今後、漁業者の所得が向上すれば、対象地域の経済に直接的な効果を及ぼすと見込まれる。

また、氷は地域住民にも供給されることから、民生向上に寄与し、対象地域の社会・経済に直接的な効果を及ぼすと見込まれる。

3. その他(ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等)

特になし。

◆ 持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

モーリタニア政府は、自国の漁業者を育成することを重視してブラワッカ職業訓練センターを設立していることから、本プロジェクト終了後も有効に活用される。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

本プロジェクトにより施設の機能が強化され、継続的な活動を可能にする人的・物的環境が整備された。本プロジェクト終了後も、この効果は持続的に発揮される見込である。

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上